

富山市中心市街地地区

(四期)

(富山県富山市)

- 計 画 期 間 令和3年度～令和7年度
- 面 積 436.0ha
- 交付対象事業費 10,999.4百万円
- 市人口 410,214人

ポイント 富山駅を中心とした南北一体的なまちづくりによる中心市街地地区全体の活性化

地区概要 公共交通の利便性を高める基盤整備、賑わい拠点の連携や居心地がよく歩きたくなる空間の創出及びまちなか居住などの推進にて、中心市街地の活性化を図る。

目 標 “車がなくても移動しやすい街”の形成
“人や文化、産業が交流する街”の形成
“住みたい・住み続けたい街”の形成

指 標 前計画（3期計画）での目標達成状況等を基に指標を設定した。

路面電車の一平均乗客数(人/日)	19,300(R1) → 21,200(R7)
中心市街地の歩行者通行量(人/日)	59,000(R1) → 59,000(R7)
都心地区の居住人口(人)	21,600(R1) → 21,600(R7)

事業内容

基幹事業 (9,445.0百万円)

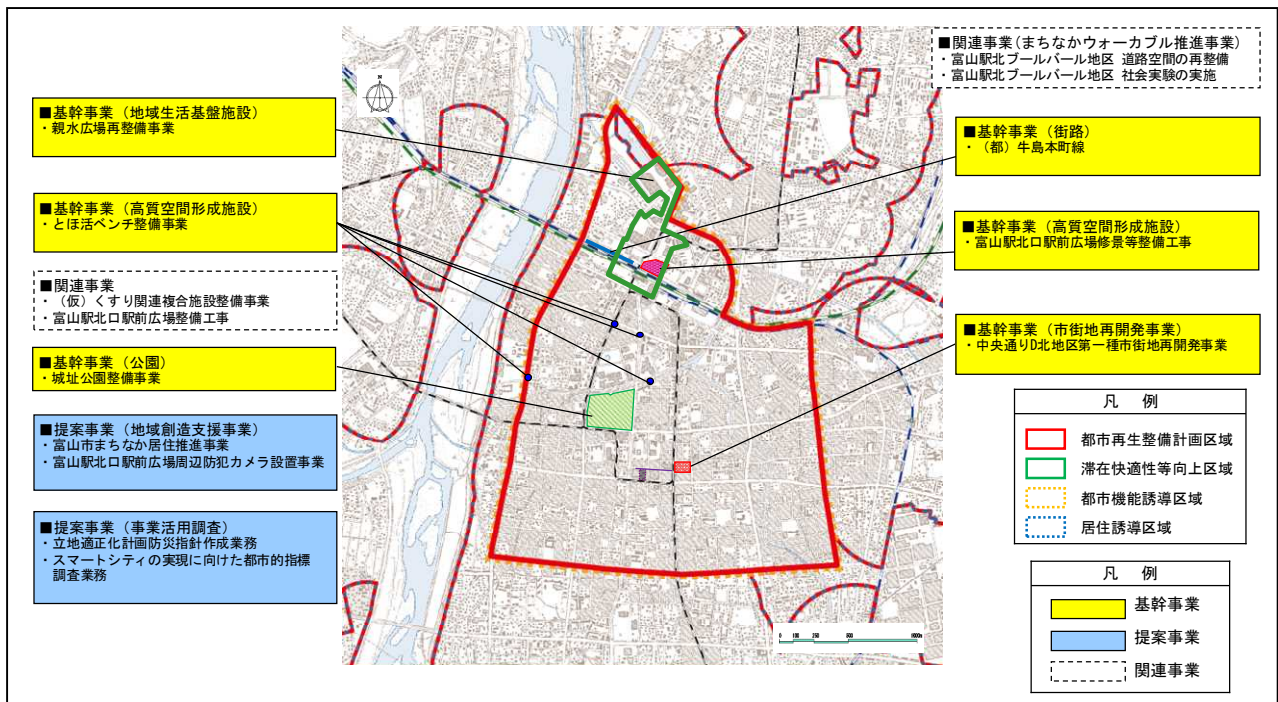
- ・(都)牛島本町線、城址公園整備事業、とほ活ベンチ整備事業、親水広場再整備事業、中央通りD北地区第一種市街地再開発事業、親水広場再整備事業等

提案事業 (303.8百万円)

- ・まちなか居住推進事業、富山駅北口駅前広場周辺防犯カメラ設置事業等

まちなかウォーカブル推進事業 (1,250.6百万円)

- ・道路空間の再整備事業、社会実験等



地区の現況と課題

現況

本地区は、前計画の路面電車南北接続や富山駅南北自由通路等の整備により、公共交通の利便性向上、利用者増加につながっている。また、総曲輪三丁目地区の再開発事業等により、新たな賑わいが創出するとともに、人口の定着が図られている。

課題

依然として、来街者の増加や賑わいの維持、富山駅を中心とした南北一体的なまちづくりを図るとともに、都市の総合力を高めることで、質の高い誰もが暮らしやすいコンパクトなまちへと都市構造を再編することが課題となっている。

計画策定プロセス

庁内検討の実施

社会資本整備総合交付金及び都市構造再編集中支援事業を活用した事業を実施している企画・環境・都市・建設部局等による庁内検討を実施し、現行計画の効果等を把握すると共に、次期計画の策定に向けた意見集約を実施している。

ウォーカブル計画の策定

まちなかウォーカブル推進事業を活用した事業により、ウォーカブル区域内の歩行者通行量の増加を目指し、賑わいを創出させることにより、「人や文化、産業が交流する街」の形成を図ることを目標としている。



中心商店街の現状



富山駅北口駅前広場



ウォーカブル区域（事業前）



ウォーカブル区域（一部完成後）



中央通りD北地区第一種市街地再開発事業
イメージパース